

2008年 春合宿プレゼン 「二十歳の頃」

～熱く生きる～

株式会社オーシャナイズ 筒塩快斗氏にインタビュー

加藤恭子ゼミナール D班 木村 関根 疋田 水野

【はじめに】

今回私たちがこの課題に取り組むにあたり、どこに重点を置き調べるかを考えました。そして私たちが調べたいと思ったのは起業家として活躍している人々です。そこで、最近経済白書などにも掲載され飛躍的な成長をみせている株式会社オーシャナイズの筒塩社長とお会いできる機会がありました。“タダコピ”の愛称で呼ばれ全国の各大学内にコピー機を設置し、大学生に豊富な情報を提供しているというところにも大変身近さを感じ、それとともにとても興味が沸きました。

【会社紹介】

株式会社オーシャナイズ (Oceanize, inc)

2005年11月28日設立

代表取締役 筒塩 快斗(つつしお かいと)

タダコピをメインとした広告事業を企画・運営。今後、タダコピに限らずさまざまなサービスを展開する予定。

【経歴】

筒塩社長は、2002年に埼玉県立春日部高校を卒業し、1浪人後に慶応義塾大学経済学部合格・入学。株取引を始めたり、紫陽花投資クラブを設立。ビジネスプランコンテスト TRIGGER 2005で優勝を果たす。優勝賞金などを元に05年仲間とともに株式会社オーシャナイズを設立。当時、全員現役の大学。平均年齢は21歳であった。07年4月3日タダコピー周年。慶応義塾大学経済学部4年(留年により2度目)

【インタビュー概要】

筒塩社長は、私たちのさまざまな質問に一つ一つとても丁寧にお話してくださいました。質問内容は以下

●大学生活はどのようにすごしていたか(サークル活動を含め)

A:大学の授業は理想とは程遠く徐々に授業にでなくなり、バイトをして遊んで寝るという典型的な大学生の一人だった。

●二十歳の頃はどのようなことをしようと思っていたか

A: 当時、将来は証券マンか銀行マンを志していた、当時株取引にとっても興味を持っていたので、株取引を始めた。

●大学、社会人時代を通じて、一番苦労したことはどのようなことか

A: 会社設立当初の数ヶ月は売り上げがゼロの時期が続いていたが、そんな状況になっても誰一人として「無理だ、不可能だ」と言って諦めることのない、そんな仲間の支えがあったために、辛いと思うことはなかった。

●会社設立に至る経緯を教えてください

A: 友人のアイデアであった「タダコピ」を元に学生の企業家コンテストに出場し優勝を果たす。このタダコピのアイディアとその優勝賞金と貯金等を元に設立した。

●会社の企業理念を教えてください

A: 「熱く生きることによって皆をドキドキさせたい」

社会の人々をドキドキさせられるサービスを生み続けられる会社になりたいという思いからこのような企業理念が生まれた。

●株式会社オーシャナイズはどのような人材を求めていますか

A: ビジネス・アスリートという「突破力」「アイデア」「チームワーク」「リーダーシップ」の4つが優れている、本気で強い個のような人。

●就職活動や仕事をする上で、一番大切なことは何ですか

A: まず自分にあった会社を見つけること、そして嘘じゃない本気のメッセージを伝える、熱意や気持ちが一番大事だということ

●社長の座右の銘は何ですか

A: 「NO ACTION NO SUCCESS」

間違ってもいいからやろうというのが基本スタンスである。

●人生において一番大切なことは何ですか

A: 信頼できる仲間を見つけることが人生でもっとも大切だそうです。

●大学生活において、何かやっておいたほうがいいことは何ですか

A: 大学の授業でも、ゼミでも興味のあるもの、つまらないものでもいいから、何かひとつに真剣に本気で取り組むことである。

【さいごに】

今回、『二十歳の頃』というテーマで課題に取り組んできたわけですが、はじめは意見がまとまるものの、なかなか前に進まない状態のときもありました。しかし、こうしてみんなで一つのことに取り組んでいくうちに仲間と協力し、チームワークの大切さにも改めて気付くことができました。そして、このような企画があったからこそ今回、筒塩社長にお話を伺えることができました。普段なかなか企業の社長さんにお会いするという機会がないので、今回のこの企画がとてもいい経験になりました。そしてこのような経験を大学生活はもちろんのこと、三年後、自分たちが社会に出たときなどに生かして生きたいと思います。最後に、筒塩社長がおっしゃっていた「何か一つのことに熱く一生懸命になって取り組むことが大切だ！」というお言葉を胸に、今後のゼミ活動にも積極的に行動していきたいと思います。

筒塩社長をはじめ、ご協力を頂いた多くの方に感謝し、改めてお礼申し上げます。